



ひがしの子

令和6年9月30日
岐阜市立岐阜東幼稚園
園長 広瀬 みゆき

もうすぐ親子ふれあいフェスティバル②です！

いよいよ親子ふれあいフェスティバルの日が近づいてきました。最近のたいようさんの様子を少し、ご紹介します。たいよう組は、2学期になってから、体を動かすあそび、運動遊びに取り組んでいます。

“できるようにになりたい”という気持ちから挑戦を続けている姿も見られます。あきらめずに、繰り返し挑戦する姿が素敵です。なりたい自分をイメージし、うんていや鉄棒、縄跳び、巧技台からのジャンプ等に挑戦しています。

そして、他にも毎日のように取り組んでいるのが「リレー」です。チーム決めや走る順番決め、それぞれ話し合っ決めていきます。時には、言い合いになることもありますし、泣いたり、怒ったり、すねたりということもあります。でも、それはとても大切なことです。思いがあるからこそ、伝えるからこそ、ぶつかり合うのです。それぞれの思いを伝え合うことで、相手の気持ちがわかることもあります。自分と違う考えに触れることもできます。たいようさんは、まさにそういう時間を過ごしています。

初めは、単純に走ることが楽しい！ということで、「何周走れたか」ということが喜びになっていました。“こんなにたくさん走れた”ということが嬉しかったたいようさん。でも、チームが決まってくると、目的はた



くさん走ることから、速く走ることになっていきました。赤チーム、緑チームの子どもたち。そこに、大人のチームの青チームが加わり、3チームで競い合っています。（私も誘ってもらって走っています。子どもたちに負けないように必死です。）

当初、赤チームが勝つことが多かったのですが、緑チームが勝つことも多くなりました。子どもたちの中から、バトンの渡し方や、走り方をどうするとよいか、考えたり伝え合ったりしています。走り終えた後、すぐに座ること等も、自分たちで声を掛け合っています。



気合を入れる掛け声も、自分たちでやっています。頼もしいですね。どちらのチームも心が一つになり、一生懸命さが伝わってきます。負けると悔しくて離れて行ったり、順番でもめたりなど、毎日ドラマがあ

ります。先日は、動画を撮り、それを見返したことで、いろいろ気づくこともありました。バトンの渡し方では、手を伸ばすことや、相手を見ること、声をかけることなど。さらには、応援の声のかけ方に気付くこともできました。「速く！速く！」「もー！」という声のかけ方より、「OOちゃん、がんばれ！」とか「いいぞ！」みたいな前向きな声掛けのほうがいいかな・・・ということにも気づけました。自分たちの姿を振り返ることで、速く走ることや相手に勝つことだけではない、仲間との関わり方、チームとしてのつながりの部分にも気づけました。さすが、年長さんですね。育ちを感じます。

当日は、どの学年のお子さんも、いつもと違う環境に緊張する子もいるかと思います。特に年少さんは、初めての親子ふれあいフェスティバル②（運動会）ですから、なおさらです。今は楽しく取り組んでいても、当日は涙が出ることも、やらないこともあるかもしれません。でも、当日がすべてではなく、これまでの取り組みの過程が大切だと思っています。実際に、年少さんの取り組みの中でも、様子を見ながらそっと加わる姿も見られます。ドキドキするけど、楽しそうな他児の姿に“やってみよう”と心が動くような場面が毎日のように見られます。そういった日々の延長線上に親子ふれあいフェスティバル2があります。

どうぞ、当日は、親子で楽しく体を動かすことを楽しんでください。そして、今しかない、この幼児期のかわいいお子さんたちの姿をご覧ください。

天気予報は今一つですが、秋の天気は変わりやすいので、皆さんのパワーで雨雲を吹き飛ばしましょう！当日もどうぞ、よろしくお願いいたします。

なつめぐみ むしむし大作戦の様子をご紹介します。

なつめぐみさんでは、運動遊びを楽しんだり、ペットボトルキャップのコマ作りをしたり、夢中になっていることがいくつかあります。その中の一つ、ひそかに続いているのが「むしむし大作戦」。これは、仕掛け（罠）を使って、虫を捕るというものです。

きっかけはAさんが家で作ってくれた罠。空き缶の中に食パンを入れた罠を持ってきました。初めはザリガニを捕る予定だったようですが、友達と話しているうちに“カブトムシを捕る”に変わったようです。砂糖を職員室でもらい、木に仕掛けました。

結果は・・・アリが来ていました。アリでは満足していない子たちと話し合いました。「やっぱ、果物がいいじゃない？」「園長先生、果物持ってきて！」ということで、バナナやリンゴ、ミカンやプラムといった果物を仕掛けました。



結果は・・・またまたアリでした。カメムシが1匹寄ってきましたが、罠には入りませんでした。それでもあきらめません。保育室で飼っていたカブトムシも死んでしまったから、もうこの時期はカブトムシはあんまりいないかも・・・。ということで、秋の虫は何か？秋の虫なら捕まえられるかも。ということになりました。

Bさんも、家でペットボトルの罠を作ってくれました。家に帰ってまで思いがっながっていることが素敵ですね。

図鑑やタブレットを見て、方法を調べました。ペットボトルの罠を、土に埋める方法を知り、やってみることに。エサは果物や野菜です。結果は・・・またまたアリです。アリってすごいですね。

でもまだ諦めません。タブレットで調べたら、「コオロギは、するめやカツオブシなどのにおいが強いものをエサにするとよい」ということがわかりました。

さっそくやってみることにしました。（Cさんは、「においが強いってことは、オナラがいいかもね。」なんて言って笑っていました。そんなことも言って笑いあう瞬間を共有していました。）



埋めるときに、土がとても硬いときがありました。「硬いね・・・」と困っていたら、一緒に畝をしかけていたDさんが、「水をかけて土を柔らかくするのはどう？」と提案してくれました。「いいね！」ということで、水を運んできてくれました。困った場面に出会ったとき、あきらめるのではなく、どうしたらいいか？と考える姿が見られました。



その場にいる子どもたちが、なんとか畝を土の中に埋めたいという気持ちで、一生懸命考え、Dさんの意見に賛同し、力を合わせて埋める姿にたくましさを感じました。まさに、自分で考えて行動（考動）する姿だと思いました。

別の場面では、仕掛ける場所を探しているとき、虫の鳴き声が聞こえてきました。私が「何か聞こえなかった？」と言うと、

どの子ども耳を澄ませました。すると、リーンリンというような鳴き声が・・・。「聞こえた！ピョピョって！」（Eさんにはピョピョと聞こえたようです。）みんなで声の聞こえるほうを探し、どうやら幼児支援教室の前の花壇ではないかということになり、そこにも仕掛けました。



ある日、なんと、アリ以外のものが初めてかかりました。でも、それはするめやカツオブシではなく、以前仕掛けて、様子を見ていたクッキーの畝です。雨に濡れて湿ったクッキーの畝に、いくつもの虫がかかっています。Bさんは、虫を見て「ハサミムシじゃない？」と言いました。図鑑で調べるとどうやらハサミムシということになりました。（1匹は確かにハサミムシでした。）ただ、この畝には、他にも虫がいましたが、何かわかりません。

「そうだ！たいようさんに聞こう！」ということで聞きに行ったところ、「ゴキブリじゃない？」と言われてしまいました・・・。でも、お尻が二つに分かれているような・・・。でも、ハサミムシの割には体が太いような・・・。結局、何かはわかりませんでした。

そして、その後、Fさんもお家でペットボトルの畝を作り、なんと、Fさんは琴塚公園に仕掛けたそうです。すごいですね。Fさんは、園で畝を仕掛けたときも「明日の朝が楽しみ！」と言ったり、何度も畝を見に行ったりしていました。ワクワクが持続していることに感心しました。そのFさんの畝にもアリ以外の虫がかかりました。それと同じ日に、幼稚園の畝にも今までと違う虫がかかりました。

特徴をみんなで言い合いました。「黒い」「首が赤い」「小さい」など。それをタブレットで検索したところ、いろいろな黒くて首が赤い虫が出てきました。1番似ているのは、「セアカヒラタゴミムシ」ではないかとなりました。Fさんが捕まえてきてくれた虫は「オオミズクサハムシ」かな？アリ以外の虫を捕まえられたのですが、子どもたちは、まだ、もっと“大物”を捕まえたいようです。

今回は、きっかけも保護者のご協力から始まり、途中も保護者の方が話を聞いてくださったり、畝と一緒に作ってくださったりしたことが、子どもたちの興味関心が高まったり深まったりしていくことにもつながったと思います。たくさん、話を聞いてくださりありがとうございます。

まだ、この挑戦は続いています。また機会があれば、続きをお知らせします。

《10月の保育について》

【3歳児】

- 友達と一緒に、戸外でいろいろな運動遊びを楽しむ。
- 見つけたり触れたり、使って遊んだりして、秋の自然に興味をもつ。

【4歳児】

- 自分の思いを伝えて遊ぶ。
- 秋の自然物を使って、考えたり試したりしながら遊ぶ。

【5歳児】

- 自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりしながら遊ぶ。
- 秋の自然に気付いたり、工夫して遊びに取り入れたりする。

